

もうひとつの働き方を選ぶための情報誌



2021. 3

MARCH

No.83

東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合 <http://www.tokyo-workers.jp>

私の仕事術

東日本大震災を経験して見えた本当の豊かさ

一般社団法人石巻グリーフサポート代表理事 木村 直隆

その日は突然やってきました...

2011年3月11日、仙台のスタジオで翌日の幼稚園の卒園式撮影準備をしていました。ズドンと下から突き上げる立っていられないくらいの大きな揺れ。ビルの2階から階段を飛び降りるように出口に向かいました。向かいのビルはぐにゃぐにゃと揺れ、道路は波打ち、自動車は上下に弾んでいました。まるで映画を見るような感覚でした。事務所でワンセグの津波の映像を見ながら、恐怖と不安で眠れぬ夜を過ごしました。次の日、自宅のある石巻の被災状況に愕然としました。被災状況を詳細に知るにつれ、生きていることが当たりまえじゃないと実感しました。

ボランティアを通じて感じた事...

2011年5月頃から水没でダメになった写真の修復・データ変換のボランティアを始めました。同時に、お子さんを亡くされたご家族にその子への手紙を書いてもらい、生きた証としてのムービーを制作する活動「スマイルアゲインプロジェクト」を開始。震災で家族を亡くして悲しみに暮れている方々も、普段は普通に生活しています。見た目では分からぬつらさや不安な気持ちを抱えた方々がたくさんいると感じました。

喪失体験による精神的苦痛や悩みは“心の反応”であって病気



ではないですが、一人で悩み苦痛を抱えるのはとても辛いことです。対処療法的な対応ではなく、本質的な心のケアの必要性を感じ、大学で精神保健の学びを深めることにしました。心のケアやサポートが必要な人は被災



「パーラー山と田んぼ」は、「障がいがあっても働くことができる職場」をモットーにベーカリーカフェを運営。2021年1月、作業所内に加工品等を製造するセントラルキッチンを設けるためのクラウドファンディングに挑戦。2,750,000円の資金を集めました（後列右端が木村さん）

者に限らず、障がいのある方々やご家族も含めて、地域にたくさん居ることが「見える」ようになってきました。これをきっかけに障害者福祉への関心も高くなっています。

本当の豊かさとは...

私は石巻で生まれ育ち、現在も石巻で暮らしています。震災前の「あたりまえ」だった暮らしは震災から10年が経ち、形を変えて新たな「あたりまえ」になろうとしています。しかし、あの時に感じた「あたりまえ」を今はとても大切に感じられるようになりました。大きな喪失を経験した分、あたりまえな事を大切に感じるココロを震災で犠牲になられた方々から贈って頂いたようにも感じます。現在、私は障がい者就労支援事業所で働いています。毎日、その方が出来る事を精一杯懸命に取り組んでいます。本当の豊かさとはお金がたくさんある事でもなく、欲しいものをたくさん手に入れる事でもなく、偉い人になるわけでもない。ただただ毎日、今できる事に一生懸命向き合い、明るい方は仕事をして、暗くなったら家に帰り、夕食を食べ、お風呂に入って疲れをとって安心して眠る。それだけで恵まれているな、豊かだなと感じられるそんな生きた方なのかなと思っています。

profile

きむら なおたか 1974年生まれ。宮城県石巻市出身。2019年一般社団法人石巻グリーフサポートを設立。同年、障がい者就労支援事業所パーラー山と田んぼを設立。「グリーフケアをもっと身近に」を理念に活動を続けている。

忘れない 3.1 何ができるか、現場に立

■ 第3回オンライン交流会 (2021年1月23日)

10年目は 節目にもなっていない!



高橋英雄さん
宮城県東松島市
(株)高橋徳治商店社長・
生活クラブ生産者(おでん種など)・
若者支援

高橋さんの言葉一つ一つ聞き漏らさないと、参加者の皆さんが聞き入っていました。10年前に大津波となって襲った海がはぐくむ幸は、震災前と変わりません。毎日水揚げされた新鮮な魚を手さばきで処理していく作業があって、おいしいおでん種製品を出荷しています。

しかし、10年目は節目にもなっていない。10年後の今、気づいて、振り返って、決して良くなっている。と一気に話されました。それは見えないものを見て、聞こえないもの聞くこと。忘れたことを忘れるな。大事なこと、大切なこと、譲れないことがあると。

高橋さんは以前から「生存権」を求め、原発なしでやっていけるようにしようと取り組んできました。しかし、原発の再稼働の流れは止まりません。2019年3月15日、東北電力女川原子力発電所2号機の再稼働の是非を問う県民投票条例案の採決が宮城県議会で行われ、反対多数で否決。6月23日の茨城県議会で、東海第二原発の再稼働の賛否を問う県民投票条例案が否決されました。

被災地は社会的課題が山積しています。「今だけ、お金だけ、自分だけは」になっていることに警鐘を発しています。仮設住宅の暮らしの貧困が引き起こす、DV、利害感情、育児放棄、児童虐待。高齢者は自給生活ができなくなり、年金だけでは暮らしていかれなくなっています。障がい者も居場所

東日本大震災被災地との交

東日本大震災・福島第一原発事故発生から10年。東京被災地との交流を通して、「忘れない3.11」の活動を出会いの中で、被災地のことを少しでも自分事として得ました。コロナ禍で訪問が叶わない今年度は、オンライン

を失っています。

心の復興はどうだろうと思うとき、その喪失感を生きて変えようと思うことが大事と話されました。

操業3年目となる野菜加工場は、就労に困難を抱えている若者が働いています。情報量の多さやスピード、生産性を上げることからくる分断を作らない作業を目指しています。若者が生き生きと働く現場を通して、納品野菜の品質管理が行き届く「心ある生産者」にしていくことにもつながっています。それは「就労支援をしている」「されている」関係ではなく、お互いの感性がつながる場になっていることに気づいたそうです。

今起きている社会的課題解決の一つひとつにつながるヒントを話してくださったと思います。ありがとうございました。

(東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合理事 佐久間寛子)



1つって考えましょう

交流

ワーカーズ・コレクティブは、
行なってきました。様々な
考えることができる機会を
オンラインでの交流をしました。

有馬克子さんは、福島県須賀川市でお店を開いて22年、穀物菜食レストラン『銀河のほとり』を営んでいます。「3.11を忘れない」被災地訪問の第3回(2014年)と第5回(2016年)に訪問・交流をしています。

福島第一原発の事故発生当時は、放射能の知識など全くない中、支援を受け学習会を行い、それを抜け、食品に含まれる放射能測定を続けることで経験から知識を深めていきました。

2011年の12月には「銀河市民放射能測定所」を開設。市民が自らの手で自らを守るために測定を行い、放射線防護の知識を身に付け、自ら判断するための"道具"を提供する第三者機関として設立しました。機材はカンパで設置されましたが、行政などから独立した公正な立場で測定所を維持継続するため、費用は測定者負担とし実施しました。

震災後というより原発事故後、保養・避難・移住の相談会、避難先のママたちで集まってお喋りをし、抱えている悩みや不安について話を聞く会、また福島からの保養や避難を受け入れている全国各地の団体が集まつての相談会のほか、リフレッシュできる音楽フェスティバルやトークショーなども開催してきました。

そして環境保護、永続可能な循環型農的生活を目指し、年齢や障がいなどの垣根をとりはらい、



南三陸

東松島 女川

山形県

宮城県

福島県

三春町

須賀川市

第4回オンライン交流会

(2021年2月20日)

タフな 銀河のかつちゃんに脱帽



有馬克子さん

福島県須賀川市

「銀河のほとり」店主

心と体と地球のための穀物菜食レストラン

みんなが笑顔で支え合うゆるやかなネットワークづくりをされています。

有馬さんの気持ちのタフさ、パワーに脱帽です。

もう一つ有馬さんと言えば"発酵"です。勉強を重ね、力を入れているのが酵素や発酵食品。ブログには穀物ココア、穀チョコ、粉末よもぎなど免疫力アップのメニュー、活動の数々が満載です。

当時、放射能の心配でうつ病になり自殺が増え社会問題となりました。今もコロナ禍で同じことが起きています。有馬さんからの"免疫力を上げ食べることで心も体も元気になる"発信が体も心も癒します。

「震災から10年」の今年は、メディアで取り上げられる機会も多くありますが、私たちの被災地交流は続きます。

(東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合理事 金子かほる)



ソーシャルファームってなあに?

様々な理由で就労に困難を抱える人々と共に生きる地域社会をつくる活動として、「ソーシャルファーム」の推進が求められています。2月23日、社会的企業研究会「ソーシャルファームってなあに?」のオンライン学習会を開催しました(ともっと事業体*・東京ワーカーズコレクティブ協同組合・社会的企業研究会共催)。

東京都は「ソーシャルファーム条例」に基づき「就労に困難を抱える方が、必要なサポートを受け、他の従業員と共に働いている社会的企業」を応援する「東京都ソーシャルファーム事業」を開始しました。認証をうけると、事業所の改修経費や就労に困難を抱える方の入件費等への補助、コンサルティングなどの支援を5年間行うというものです。対象の事業所を次の3項目を満たすものと規定しています。

- ①事業からの収入を主たる財源として運営していること。
- ②就労に困難を抱える方を相当数雇用していること。
- ③職場において、就労に困難を抱える方が他の従業員と共に働いていること。

「ともっと事業体」は共に働くを実践している団体と共に「東京都ソーシャルファームを考える会」を結成し、都の担当職員へヒアリングを行い、指針や応募要項の問題点について要望書の提出を行ってきました。

「ともっと事業体」の一員である「共働事業所よって屋(府中市)」では、片付け事業やリサイクルショップの運営を、何らかの理由で働く機会を得られなかった人たちが「まずはやってみようか!」と、働くことを始めています。今回のソーシャルファーム事業に「予備認証」枠で応募し、支援を受けて体制を整え「認証」という経過をすすめることを目指しました。

審査の結果、雇用契約や就労規則が労基法を満たしていないという理由で、申請は落選しました。当事者が一日にどれくらい働けるかが、本人もわからないところから仕事を始め、様子を見ながら働き方を決めていく現場は、東京都ソーシャルファーム事業の基準には当てはまらないという問題が見えてきました。

共に働く事業所は様々な形で就労に困難を抱える方たちと事業をおこなっています。東京都はこれらの多様な事業所の現状をしっかりと把握し、「東京都ソーシャルファーム事業」が真に必要な応援ができるようになることを強く感じます。

(ともっと事業体 代表:堤典子)

*ともっと事業体:誰でもいつでも、そのもてる力を発揮できる社会づくりをめざして、社会参加に困難を抱える就労希望者の一人ひとりの働きが、その人らしく働けるための事業をおこなうことを目的として、2017年度4月に立ち上げた共同事業。

現在、6団体がそれぞれの事業を超えて、共に働く場を拓げている。

- (N)コンシェルティーノ / (N)こすもす
- (一社)共に働くワーカーズ えんごらしょ / スーコンタン
- (一社)ぶろぼの工房 / (一社)共働事業所よって屋

読んでみませんか!

ワーカーズコレクティブガイドブック 2020
はたらきかたつくろうよ!

ワーカーズ・コレクティブの説明、ワーカーズ設立の手引き、事業経営のチェックなどを掲載しています。
ワーカーズ・コレクティブをつくりたい方、事業運営に関心のある方はぜひ!

価格:1,000円(税込)
ご購入の連絡は、東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合まで



ワーカーズな毎日

「つみき」は、住み慣れたまちで自分らしく心豊かに生活していくために、ワーカーズ・コレクティブという働き方で、地域で暮らす一人ひとりが「つみき」のように重なり合い、お互いを生かし合える地域福祉をめざし2003年に設立しました。2013年にはNPO法人を取得しメンバー一同たすけあいながら活動をしています。

特定非営利活動法人 足立たすけあいワーカーズつみき

足立区 TEL:03-3852-3117
自立援助サービス (ACTつながるケア)
障がい福祉サービス(居宅介護、移動支援、同行援護)

あるメンバーの一日

- ⌚ 9:00~11:00
自宅からACTつながるケア利用者宅へ。
家事援助、掃除
- ⌚ 11:30~12:30
事務所にて事務作業
自宅へ
- ⌚ 16:00~15:30
自宅から 障がい居宅介護利用者宅へ
利用者と一緒に 家事援助

地域活動

つみきでは、ACTの補助金を活用し、NPO活動支援センターにて、おしゃべりカフェやサークル活動を行い、地域の方々との交流を深めています。

コロナ禍で工夫をして開催したフラワー・アレンジメントは、参加者から、久しぶりに楽しい時間を過ごせたと好評でした。



2019.9月 地域のつどい
毎年好評のお料理教室



2020年10月 おしゃべりカフェ
フラワー・アレンジメント



2020年12月 おしゃべりカフェ
フラワー・アレンジメント

東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合情報誌「せれくと」No.83

〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町2-19-13 ASKビル5階

TEL:03-3207-1941 FAX:03-3207-1945

E-mail office@tokyo-workers.jp

<http://www.tokyo-workers.jp>

発行日 2021年3月26日

編集 ワーカーズ・コレクティブ 企画編集のもの
年間購読料 600円(年4回発行)